

# 吉重 道子先生

今年の4月より、内之浦の吉重クリニックに小児科医として着任されました。内之浦での小児科の専科は初めてのことです。

小児科医である父の姿を見て、自身も小児科医になることを志し、今年で18年目。

診察する際、子どもだけでなく、一番身近な存在の保護者ともコミュニケーションをとるように心がけていると話されました。

大学病院関係の勤務が長いことから、重病の子どもを診ることも多かった吉重先生。小児科医としてうれしいと感じる時を聞くと、「今まで診た子どもたちが、元気になり病院に来なくなって、風のうわさで元気になっていると聞くことが一番です」と優しい笑顔で語られました。



# 子どもに

## 串崎 勇さん

肝付町には、様々な形で子どもに寄りそい、見守る人たちがいます。

水土里サークルの副代表として、子どもたちに田植えや花植への指導をしたり、夏には地域活動で子どもたちのためにそうめん流しをする竹を切ったり、駅伝大会に応援に行ったりと、様々な形で子どもたちと関わっています。

2002年に、長く過ごしていた名古屋から生まれ故郷岸良に戻り、19年。長く過ごした名古屋に娘さん2人を残して奥さんと帰郷した串崎さん。以前詠まれた「愛娘 残して我は帰らむか 胸の葛藤 親待つ国へ」という句を教えてくださいました。「子どもの笑顔を見たときが一番うれしい、形式ばったことではなく自然体で関わるのが一番」と笑顔で語る姿から、地域の子どもたちを我が子のように大切に思い見守っている愛情の深さを感じました。



## 小竹さん・原口さん・須田さん



▲ 小竹さん

▲ 原口さん

▲ 須田さん

「おはようございまあーす！」高山小学校の子どもたちが登校するときには、必ず小竹 範夫さんと原口 孝さんの姿があります。2人が見守り続けてから15年目を迎えました。雨が降る日も風が強い日も横断歩道の前に立ち続けています。「晴れの日よりも、天気の良い時を注意して見守らなければいけないですね。」と話してくれました。

内之浦小学校の前には、横断中の旗を持つ須田 善郎さんの姿があります。日替わりで岸良学園と国見小・中学校の前にも立つという須田さん。

時代背景もあり、子どもたちに触れることも、どこのだれかを聞くこともできませんが、元気なあいさつと成長を楽しみに、今日も見守り続けています。